



# 「志」大野中だより

令和5年6月1日(木)

文責:校長 瀬口 勇治

体育祭を終えて、日常の学校生活に戻り、授業や部活動に真剣に取り組む姿が見られます。

そして、体育祭で学んだことを充実させるために、生徒会専門委員会の様々な取組が行われています。学級委員会では、今月の全校生徒の目標を「行事を振り返り、自他の頑張りを継続しよう」と掲げ、「授業前後の挨拶や頑張り応援大計画」の取組を取り組むようにしています。体育祭でお互いの頑張りを認め合ったことが、日常の学校生活の中で見るができるようになると、さらに学校全体が成長してくれるものと期待します。

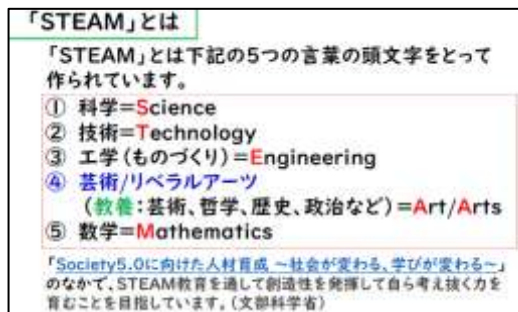
## 総合的な学習の時間「志」タイムを始めました。

AI や IoT などの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、さまざまな情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められています。

そこで、「STEAM」の学びの視点(右図)から「探究」の学習を実施する授業を第2学年、第3学年を対象に「志」タイムとして、5月末から9月までの年間10時間で実施します。

授業では、自分の興味・関心、好奇心からくるワクワク・ドキドキを起点に「未来」「発明」「調査」「創造」などのキーワードをもとに、やってみたいことを探りながら、「STEAM」を切り口として探究学習を行っていきます。

どんな成果物ができるかとても楽しみです。



### 「太陽が地球の周りを回ってる?」

《2004年、国立天文台の研究者が小学校4~6年生を対象に調査したところ、約4割の子どもが「太陽が地球の周りを回っている。」と答え、学校回答でも報告されちょっとした論争になってことがあったそうです。大人なら誰も地球が動いていることを知っています。しかし、初日の出を拝みに行って「おお。新しい年も地球は高速で自転しながら公転しているぞ」なんて感想を持つ人は多分どこにもいません。今日でも素朴な人間の感覚経験としては、動かない大地の上を太陽が東から西へ巡るのであり、天動説の方がずっと自然な世界観だと思われれます。

この素朴な人間の感覚経験は、心理学でいうインフォーマルな知識、理科でいう素朴概念の一種であり、人間の思考において極めて強靱で支配的に作動しています。だからこそ、長年に渡り人類は天動説を常識としてきましたし、カトリック教会は宗教裁判の末にガリレオを幽閉したのです。言うまでもなく、カトリック教会は大常識派でした。

コペルニクスやガリレオがすごいのは、いかに天動説に矛盾する計算結果や観測データを得たとはいえ、それを根拠に長年の人類の常識、自身の感覚経験の方を疑い、ついには地球の方が動いているという、当時からすればおよそ非常識な理解に到達したことでしょう。

この、「科学的に正しい非常識」を生み出すことこそ科学の本質であり、科学のかっこよさなのではないでしょうか。》【「資質・能力と学びのメカニズム」 奈須 正裕 著】

大野中学校の生徒からも「志」タイムの学習をきっかけに、偉大な科学者が誕生することを期待しています。

### 今後の主な行事予定

日程	学校行事	日程	学校行事
6/ 5(月)	教育実習開始	6/ 9(金)	選手激励会、部活動アルバム写真撮影
6/ 6(火)	内科検診3年生	6/13(火)	内科検診2年生
6/ 7(水)	3年生進路説明会、歯科検診	6/16(金)	6月定期考査、6校時:避難訓練
6/ 8(木)	歯科検診	6/17(土)~	筑紫区中学校総合体育大会